

マカジキ 中西部北太平洋

Striped marlin *Kajikia audax*

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)

生物学的特性

- 最大体長：下顎叉長 214 cm
- 寿命：調査中
- 性成熟年齢：台湾近海で約 5 歳、ハワイ近海で 3~4 歳 (50%成熟年齢)
- 産卵期・産卵場：周年 (主に 4 月から 9 月)、中西部太平洋 (北緯 30 度~0 度にかけての海域)
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：調査中
- 捕食者：調査中

利用・用途

刺身、寿司、切り身 (ステーキ、煮付け)

漁業の特徴

我が国の漁獲のほとんどがはえ縄と流し網によるものであり、近年、はえ縄の割合は増加傾向にある。漁獲の大部分はマグロ類を対象とした操業の混獲であるが、釧路沖、常磐沖、房総沖、南西諸島等では、季節に応じてはえ縄、突きん棒及び流し網で本資源を主対象とした操業を行っている。

漁獲の動向

我が国の本資源の漁獲量は、1970 年代に 1 万トンを超えていたが、その後減少を続け、2023 年の漁獲量は 875 トンであった。ISC が集計した本資源の総漁獲量は、1960 年代前半までは 1 万トン以下であったが、その後急激に上昇し 15,000 トン以上に達した。1970 年代半ば以降は、多少の増減を繰り返しつつも一貫した減少傾向を示し、2023 年は 1,714 トンとなっている。

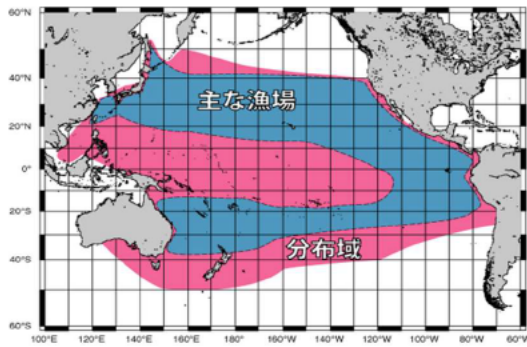
資源状態

最新の資源評価は、2023 年 4 月に ISC かじき類作業部会によって実施された。資源評価モデルは統合モデルの Stock Synthesis 3.30 が使用された。資源評価の結果、2021 年の資源状態は乱獲状態にあり、過剰漁獲されているとされた。ISC は、資源評価の結果に様々な不確実性が含まれていることを指摘しており、2024 年に資源評価の外部査読を行なった。

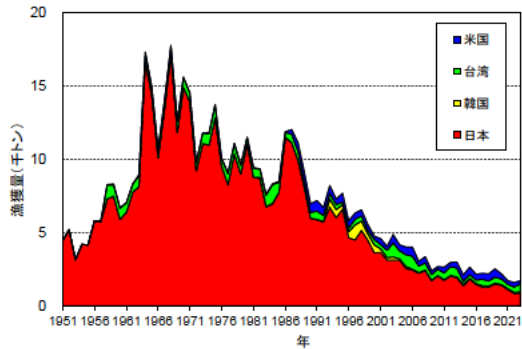
管理方策

WCPFC は、本資源の保存管理措置として、各メンバーが漁獲量を 2000~2003 年の最高漁獲量から 2011 年は 10%、2012 年は 15%、2013 年以降は 20%削減することを 2010 年に決定している。2019 年の WCPFC 年次会合では、資源評価の結果を受けて暫定的な資源回復計画に合意した。当該計画では、本資源の暫定的な資源回復目標を、2034 年までに少なくとも 60% の確率で漁獲がなかった場合の産卵資源量の 20% (20%SSB_{F=0}) を達成することとした。2024 年に ISC かじき類作業部会によって実施された将来予測の結果を基に、同年の WCPFC 年次会合では、総漁獲量が 2,400 トンを上回らないことを確保するため、各国・地域の漁獲上限を、2000~2003 年の最高漁獲量から 60%削減した数値とし、これを達成するために必要な措置を講じることを基本とした措置 (CMM-2024-01) が合意された。

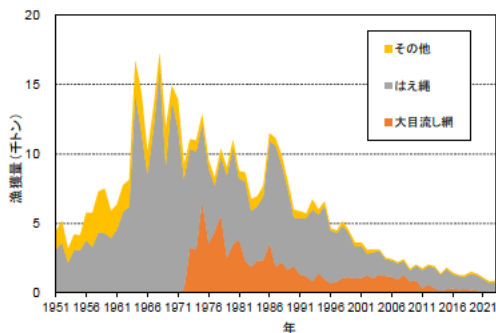
マカジキ (中西部北太平洋) の資源の現況 (要約表)	
世界の漁獲量 (北太平洋全体) (最近5年間)	1,584~2,524 トン 最近 (2023) 年: 1,714 トン 平均: 1,948 トン (2019~2023 年)
我が国の漁獲量 (北太平洋全体) (最近5年間)	862~1,510 トン 最近 (2023) 年: 875 トン 平均: 1,150 トン (2019~2023 年)
資源評価の方法	統合モデル (SS3.30) による解析
資源の状態 (資源評価結果)	B_{2020} : 7,339 トン SSB_{2020} : 1,696 トン、 $20\%SSB_{F=0}$: 3,660 トン ($SSB_{2020}/20\%SSB_{F=0}$: 0.46) $F_{2020}/F_{20\%SSB_{F=0}}$: 1.09 2020 年の資源状態は、過剰漁獲かつ、乱獲状態である
管理目標	暫定的な資源回復目標は、2034 年までに少なくとも 60% の確率で $20\%SSB_{F=0}$ を達成すること
管理措置	各国・地域が漁獲量を、2000~2003 年の最高漁獲量から 60% 削減
管理機関・関係機関	WCPFC、ISC
最新の資源評価年	2023 年
次回の資源評価年	2027 年



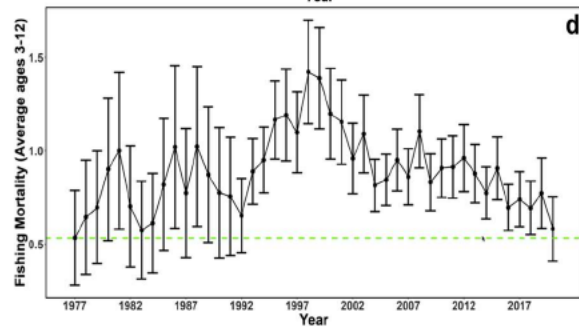
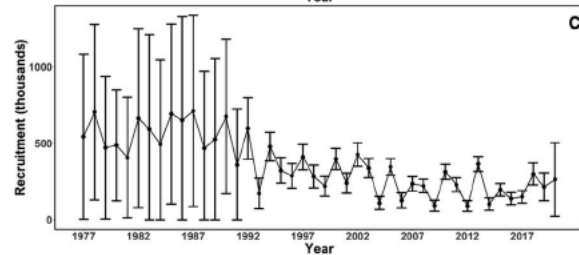
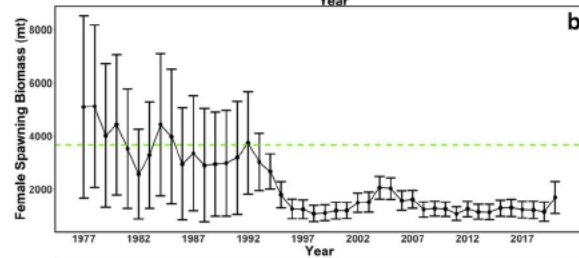
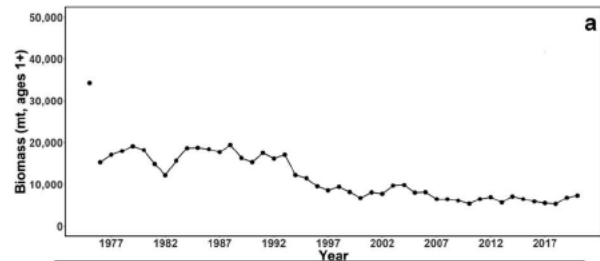
太平洋におけるマカジキの分布域 (桃色) と主要漁獲域 (青色)



北太平洋におけるマカジキの国・地域別漁獲量 (ISC 集計分、1951~2023 年)



北太平洋におけるマカジキの我が国の漁法別漁獲量 (1951~2023 年)



統合モデルの解析結果 (1977~2020 年)

(a) 1 歳以上の総資源量 (トン)、(b) 産卵親魚量 (トン)、(c) 加入尾数 (千尾)、(d) 漁獲圧。

b、d で示された緑の破線は、それぞれ $20\%SSB_{F=0}$ に対応する産卵親魚量、 $20\%SSB_{F=0}$ を達成するために必要な漁獲圧を示す。